



2026 年 1 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 ELEMENTS
代表者名 代表取締役社長 長谷川 敬起
(コード番号：5246 東証グロース市場)
問 合 せ 先 経営企画部長 泉 光一郎
(TEL 03-4530-3002)

2025 年 11 月期決算において想定されるご質問への回答について

日頃より、当社にご関心をお寄せ頂き誠にありがとうございます。2025 年 11 月期第 4 四半期決算において想定されるご質問とその回答について、下記の通り開示させていただきます。

1. 2025 年 11 月期第 4 四半期および通期業績について

Q1：2025 年 11 月期 第 4 四半期の業績の総括は？

2025 年 11 月期における第 4 四半期の売上高は 1,173 百万円（前年同期比+70%）、EBITDA は 51 百万円（同+6 百万円）、営業利益は▲78 百万円（同▲26 百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は当期純損失▲77 百万円（同+17 百万円）となりました。

Q2：2025 年 11 月期第 4 四半期の増収要因は？

個人認証ソリューションの売上高が、前年同期比+59%の 1,163 百万円と堅調に推移した点が挙げられます。主力の LIQUID eKYC サービス好調に加え、第 3 四半期から連結化した株式会社ポラリファイ（以下、「ポラリファイ」と言います）も寄与いたしました。

Q3：2025 年 11 月期第 4 四半期の営業利益および EBITDA の減少要因は？

売上総利益率はポラリファイの連結子会社化に伴い前年同期比で低下したものの 74.9%を確保し、売上総利益は前年同期比で+51%増の 879 百万円で着地しております。

販売費および一般管理費は人員数の継続的な増加・一過性の費用発生に加え、ポラリファイの連結化（198 百万円）およびポラリファイ M&A 関連費用（38 百万円）の影響により、前年同期比で+321 百万円（同+50%）増加の 958 百万円となりました。

営業利益は上記の結果、▲78 百万円となりました。なお、ポラリファイの M&A 関連費用を控除した営業利益は▲40 百万円となりました。

EBITDA は上記の影響を受けながらも、51 百万円と前年同期の 45 百万円から 6 百万円の増加となりました。

Q4：営業利益と親会社株主に帰属する当期純利益の差分について教えてほしい。

営業利益と当期純利益の差分については、2025 年 11 月期第 4 四半期において株式会社アドメディカ（以下、「アドメディカ」）に係る減損損失及び譲受価格の減額調整を行ったことが主な理由となります。詳しくは 2026 年 1 月 13 日に開示した「2025 年 11 月期 4Q および通期決算説明資料」の P23 をご参照ください。

Q5：2025 年 11 月期 通期業績の総括は？

2025 年 11 月期の通期決算については、売上高 3,895 百万円（前期比+605 百万円、前期比+53%）、EBITDA+270 百万円（同▲73 百万円）、営業損益▲215 百万円（前期比▲272 百

万円)、親会社株主に帰属する当期純損益▲700 百万円(前期比▲568 百万円)と増収減益で着地しております。

売上高、売上総利益については、2025 年 7 月に開示した通期修正予想のレンジのほぼ中央値で着地しております。

売上総利益率については、ポラリファイの連結子会社化に伴い前年同期比で低下したものの 77.5%を確保しております。販売費および一般管理費についても、ポラリファイの連結子会社化(413 百万円)およびポラリファイ M&A 関連費用(163 百万円)の影響により、前期比では+1,108 百万円の 3,233 百万円となりましたが、ポラリファイの PMI は順調に推移しており、一過性の統合費用(M&A 関連費用)の剥落、コストの最適化により費用は減少する見込みでございます

上記の結果、2025 年 11 月期通期の EBITDA は 270 百万円の黒字を維持、営業利益は、▲215 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は▲700 百万円の赤字となりました。ポラリファイ M&A 関連費用を除いた EBITDA は 379 百万円と前期を上回る水準、営業利益は▲52 百万円となります。

2. 2026 年 11 月期通期業績予想について

Q1: 2026 年 11 月期の通期業績予想は?

2026 年 11 月期の通期業績予想は以下を見込んでおります。

(単位: 百万円)	2025 年 11 月期 通期実績	2026 年 11 月期 通期業績予想	前年同期比
売上高	3,895	5,100~5,300	+30%~36%
EBITDA	270	800~1,000	+195%~269%
営業利益	▲215	0~200	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲7020	▲100~100	-

※EBITDA は「営業利益+減価償却費(有形・無形固定資産)+株式報酬費用+のれん償却額」で算出されます

Q2: 2026 年 11 月期の各事業における売上高の見通しは?

個人認証事業において、「LIQUID eKYC」と「ポラリファイ eKYC」の事業拡大が継続することに加え、「ELEMENTS CLOUD」の事業成長や「AiQ Permission」の下期以降の商用化も貢献し、全体として前年同期比で+30%~+36%の増収となる 5,100 百万円~5,300 百万円の売上を見込んでおります。

Q3: 2026 年 11 月期の営業利益が黒字回復する根拠は?

詳しくは 2026 年 1 月 13 日に開示した「2025 年 11 月期 4Q および通期決算説明資料」の P28~31 をご参照ください。

Q3: データセンター事業の影響は 2026 年 11 月期の通期業績予想に含まれているか?

データセンター事業は、現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難です。不確実な要素を排除し、情報利用者の皆様をミスリードさせないよう、保守的な観点から本事業の数値は計画に織り込んでおりません

事業の進捗により適正な業績予想が可能となった時点で、速やかに開示・算入いたします。

以 上

【免責事項】

本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。本資料は、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社グループはそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。